令和5年度　指定管理業務評価結果書

1　施設の名称等

(1)	公の施設の名称	作州民芸館
(2)	指定管理者	所在地　津山市小田中１３１２－１０ 名　称　城西まちづくり協議会 代表者　会長　高　須　昌　明
(3)	公の施設の所管部署	観光文化部歴史まちづくり推進室
(4)	指定期間	令和4年4月1日　～　令和9年3月31日
(5)	評価対象期間	令和5年4月1日　～　令和6年3月31日

2　施設の利用状況

	令和5年度実績	対R4年度	令和4年度実績	対3年度	令和3年度実績
(1) 利用者数等	来館者数　14,486人 貸室利用件数　105件	-5,002人 -28件	来館者数　19,488人 貸室利用件数　133件	3,944人 61件	来館者数　15,544人 貸館利用件数　72件
(2) 事業の内容	①開館業務 ②貸室業務 ③自主事業 〔喫茶業務、販売業務、イベント関連業務（城西まるごと博物館、先達と行くおかげめぐり、しののめキッチン、野菜と魚の市、津山民芸協会ワークショップ、城西雛めぐり等）〕				

3　収支の状況

	令和5年度実績	対R4年度	令和4年度実績	対R3年度	令和3年度実績
(1) 収　入					
（指定管理者の収入）	総　額　12,911千円	-3,670千円	総　額　16,581千円	1,120千円	総　額　15,461千円
内　訳	内　訳		内　訳		内　訳
指定管理料	2,880千円	千円	2,880千円	-2,355千円	5,235千円
施設継続・再開事業助成金	千円	千円	千円	千円	千円
利用料金	173千円	4千円	169千円	39千円	130千円
自主事業（カフェ、物販）	9,693千円	-3,681千円	13,374千円	3,431千円	9,943千円
雑収入	165千円	7千円	158千円	5千円	153千円
(2) 支　出	令和5年度実績	対R4年度	令和4年度実績	対R3年度	令和3年度実績
（指定管理者の支出）	総　額　12,965千円	-3,668千円	総　額　16,633千円	1,109千円	総　額　15,524千円
内　訳	内　訳		内　訳		内　訳
人件費	4,891千円	-437千円	5,328千円	-643千円	5,971千円
消耗費	142千円	-341千円	483千円	244千円	239千円
光熱水費	943千円	-122千円	1,065千円	-26千円	1,091千円
通信費	143千円	-14千円	157千円	千円	157千円
警備委託	172千円	千円	172千円	千円	172千円
備品費	44千円	44千円	千円	千円	千円
修繕費	千円	-1千円	1千円	1千円	千円
消防点検費	11千円	千円	11千円	千円	11千円
保険料	59千円	-5千円	64千円	千円	64千円
会費	10千円	千円	10千円	千円	10千円
雑費	91千円	-23千円	114千円	-189千円	303千円
自主事業費（仕入れ、人件費、材料費等）	6,459千円	-2,769千円	9,228千円	1,722千円	7,506千円

4　総合評価結果

(1) アンケート調査等

毎月の城西まちづくり協議会定例会で意見を聴取するとともに、「まちの駅運営会議」を通じて、店舗運営の改善、商品開発に利用者の声を反映させた。

(2) 指定管理者の自己評価

喫茶・飲食事業について、「とくもりうどん」を津山産小麦に変更した。うどんは好評で、多くの方に食べに来ていただいている。提供商品の価格見直し、メニューの見直しが課題になっている。

販売事業について、弁当、地場農産物、農産加工品、パン、菓子類などの商品は引き続き販売している。山畑のサツマイモをはじめ、農産物は新鮮で安価のため観光客にも人気である。民芸館の名前にふさわしくなるよう「津山民芸協会」の商品を取りそろえ、販売促進を始めた。ワークショップと並行して集客に努めたい。エコバッグ、クリアファイル、稲葉なおと氏の写真集は地元住民と観光客の支持を得ている。

イベントの実施、貸館利用については、コロナが落ち着き、イベント、ワークショップ、貸館事業は通常に開催できた。初めて結婚式に使っていただいた。雰囲気がよかったので今後事業として取り組みたい。民芸協会のワークショップには市外からの参加もあり、観光振興につながることが期待できる。情報を発信して集客する工夫が必要である。

インフォメーション事業について、城西地区で作成した、おかげめぐりマップ、フォトスポットマップ、津山市が作成した重伝建マップは人気で、多くの観光客の観光案内に活用している。民芸館が「先達がいくおかげめぐり」の出発地になっているため、多くの方に民芸館を知っていただく機会になっている。お客様への声掛け、観光案内の対応などスタッフの資質向上が求められる。

開業当初、高齢者の交流の場としてにぎわっていたが、コロナでこけない体操が休止されるなど、高齢者が集まる機会が減った影響が長引き、集客に苦慮している。客層のターゲットを変えて集客を試みることが求められている。また、観光客の接客の結果、津山にはゆっくりまちを歩く層が訪れていることが分かる。その方たちが休める場としての整備、また近くの保育園の保護者をターゲットに、魅力ある商品選定が必要だと思われる。毎月作成している「まちの駅カレンダー」は好評で、弁当の電話予約など販売促進になっている。広報媒体として内容を充実させていきたい。建築物としての民芸館の良さを生かし、若い人のアイディアも取り入れてまちの駅の利活用促進につなげたい。

(3) 市の評価

令和5年度は、建物の外観改修のため、休業期間を設けたことから、来館者数、貸室利用件数ともに昨年度より減少している。しかしながら、改修に合わせた内部の模様替えや喫茶メニューの見直し、結婚式などの新たな需要の取り込みなど、今後の来場者数増が見込まれる。

地域資源を活用した商品・サービスの開発だけでなく、地元に根付いたイベント展開や学校連携事業など、多岐にわたる取組を実施している。施設を起点に、城西地区全体の情報発信強化もなされており、高く評価できる。

地域住民の世代を超えた交流の場として、広く受け入れられており、高齢者の見守りや商業以外の住民ニーズにも対応し、コミュニティ維持や活性化に寄与している。

今後も、城西重要伝統的建造物群保存地区の拠点施設として、地域客や観光客に満足してもらえるよう、スタッフの資質向上や民芸館ならではの企画を推進し、地域の活性化に努めてほしい。